



イースターの卵

「わたしは兄弟たちに
御名を語り伝え、
集会の中であなたを
賛美します」

(詩編22・23)

あゆみ

2021年
復活祭号



発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463
FAX042(592)2464

主任司祭 ペロッティ・ジャンルーカ

皆様、主のご復活の喜びを申し上げます。おめでとうございます。

HAPPY EASTER!

お陰様で去年(六月末ごろ)ミサを再開して以来、高幡教会では、感染防止対策のための制限の中でも、絶えず主日の祭儀を挙げてくることができました。

第二バチカン公会議(一九六二年〜一九六五年)は次の様に述べています。

「教会は、キリストの復活の日に起源をもつ使徒の伝承により、過越の神秘を八日目ごとに祝う。この日はそれゆえにこそ、主の日すなわち主日と呼ばれている。この日、キリスト信者は一つに集まらなければならぬ。それは、神のことばを聞き、感謝の祭儀に参加して、主イエスの受難と復活と栄光を記念し、彼らを『新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与えて』くださる神

に感謝をささげるためである(二ペトロ一・一二)『典礼憲章』主日の再評価、一〇六)

残念ながら二〇二〇年、四旬節も聖週間も公けの典礼が何もなかったことは異例のこと、悲しみや困惑や闇が教会を覆ってしまいました。いまだに病氣や恐れのため教会に來られない信者の方は少なくないと思います。

毎週主日に公開の形式で、また平日は非公開の形式で、感謝の祭儀を捧げる時、ミサに与る慰めと喜びを奪われた方々を特に思い起こし祈っております。その中には去年十二月九日八十八歳になった母もいます。数年前アルツハイマーのため施設に入りました。ちょうど一年前新型コロナウイルスに感染したことがわかりましたが、彼女は負けず回復しました。一ヶ月ほど前、ワクチンの接種を受けて、私も安心できるようになりました。これでしばらくは上手に生きていけるだろうと思います。コロナの状態が治って、今後あるいは神さまのみ心で彼女が眠りにつくことがあっても、帰国して葬儀ミサを挙げることでできるように毎日祈り願っております。

二年ぶりで聖週間の典礼、特に復活の聖なる徹夜祭を公けに捧げる事もでき(できることを願っています)、大いなる喜びの源になりました。こちらで初めての復活祭をこ一

緒に捧げるにあたり、ある詩編のみ言葉が思い浮かびます。「わたしは兄弟たちに御名を語り伝え、集会の中であなたを賛美します。」（詩編二十二・二十三）

実に、受難を受けて復活することによって主イエスは私たちの間におられ、私たちにそのみ業（過越の神秘）を語り伝え、私たちと共に父である神に賛美をお捧げになつていらはなんと素晴らしいことか。

皆様、全ての信者、また全ての洗礼願者がこの喜びを味わうことができますように共に祈り求めたいと思います。改めてご復活、おめでとうございます。

HAPPY EASTER!



「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」（ルカ27・5）

教会委員会だより

教会委員会委員長
アン・レス・アナスタシア 山崎紀子

二〇二一年度 教会委員会委員長の奉仕をさせていただきまます、アン・レス・アナスタシア山崎紀子です。私たちが思っていた当たり前は、当たり前ではない日々が続いています。教会活動も当たり前に行ってきたことが、先の一年で当たり前ではなかったことに気づかされています。

昨年の十二月八日より今年の十二月八日まで「ヨセフ年」と宣言されました。あらゆる場面に、あらゆる困難に、全ての事に聖ヨセフに願い、共同体のためにヨセフ様に倣い誠実で謙虚な奉仕が出来る様に祈っています。皆様のお力をお貸しただけまます様お願いいたします。

以下、二〇三月の教会活動の紹介をします。

一、一月からの、緊急事態宣言が延長されましたが、主日のミサは三回、感染対策、地区割りや人数制限がある中で、ミサに与る事ができています。

二、二月六日（土）午前、午後、地区割りにて、信徒総会を開催いたしました。六十九名の参加がありました。

三、緊急事態宣言中ですが、第三日曜日

十四時より、感染対策をして教会学校の子供ミサを行っています。

四、二月十三日、地区割りにより、聖クラレチアン宣教会の神父様によるゆるしの秘跡がありました。引き続き十六時のミサを捧げて下さいました。

五、二月より、毎日曜日13時・30時・17時・00までご聖体顕示をライブ配信しています。高幡教会ホームページから閲覧が出来ます。

六、二月十四日14時より、姉妹教会交流会礼拝を非公開でZOOM礼拝を行いました。

七、三月七日、地区割りにより、聖クラレチアン宣教会の神父様によるゆるしの秘跡がありました。引き続き、十一時、十四時三十分のミサを捧げて下さいました。

八、復活徹夜祭では、洗礼式が行われました。

歴代初、イラクを訪問したフランシスコ教皇は、神が様々な糸を用いて芸術的に織り出した「絨毯」にたとえ、それぞれが独自の歴史・典礼・霊性を保ちながらも、一つの祈り、一つの精神、一つの希望と愛のもとに、兄弟姉妹として常に一致するようにと、関係者に願われました。

私たちも主義主張が違う方々が教会に集い、同じミサに与れる事、ミサを通して一致できる事を感謝します。この当たり前だと思っていたことが、神様のお恵みと気づき、生きる事ができますように願います。

信者寄稿

奇跡の一本松

ミカエル・ゼノ 武藤浩之

東日本大震災から十年。地震の後、取材で岩手県陸前高田市を目指した。奇跡の一本松で有名になった場所だ。しかし、道は至る所で寸断され、私が到着した時、現地の人たちは安堵と不安に満ちた眼差しを向けていた。

今を生きる我々にとって道は全てのつながりだ。道が寸断されると電線も切れ食料も、家族との連絡も取れない。道がつながるといえるのは、命をつなげるに等しいことだ。

あれから十年、その道はコロナウイルスを運んできた。人が作り出すものはそんな物なのかもしれない。震災以降、日本では絆という言葉が持て囃され、皆、誰かとつながりたいとSNSなどで希薄なつながりでも数が多ければ安心出来るように想えた。

しかし、絆とは何だろうか？糸に半分で絆と書くのなら、その半分のどうしたら実感できるのだろうか。登山家がロープの半分を、誰かが持っているだろうと崖を降りはじめ誰も持っていないかったらどうなるだろうか。

絆とは、常に緊張感のある状態に糸を保たないと実感できないのだと想う。私たちは洗礼によって主と絆で結ばれた。しかし、私の絆は自分勝手だ。許しを乞う時だけピンと張ろうとするなど都合よすぎる。恥ずかしい限りだ。

奇跡の一本松。震災から生き残った未来の象徴のように云われている。しかし、地元の漁師さんは「三万本あった松が失われた象徴だ」と云った。その切なさ、やり切れなさを私はどれだけ理解しようとして努力したのか。

主はいつも近くにおられる。その想いを、受け取れる絆を大切にしていれば気づくのだと想う。コロナ禍で希薄になった人とのつながり。その中にもきっと主はおられるのだと想う。今こそ、一步を踏み出さねば。主の絆を感じ、小さな一步を歩み出す勇氣を持てば、やがて大きな力となることは聖書にも書いてある。

震災から十年の年に宣教司牧を考える機会を頂いた。多様化する社会や、貧困問題、百年に一度の病、地球温暖化など、全ての問題は神の創りし世界を便利ということで切り崩してきたツケなのだろう。ビジネスの世界で「Job」という会社がある。日用品などをステンレス容器に回収・再利用するものだ。それは、諸先輩が行っていた牛乳瓶のシステムだ。先輩、教えて下さい。そこに主がおられる。

「さつきの后 聖マリアへの祈り」

さつきの后聖マリアよ。
純白の百合、真紅のバラ、
私たちの花園である方、
聖霊の光で日々の暮らしを
照らして下さい。
神があなたによって
お与えくださった
救い主、

御ひとり子イエス・キリストで
私たちの魂を満たして下さい。
あなたのように神のしもべとなる
ことができるよう
新しい心をお与え下さい。
この世に慈しみとまこと、
私たちがもたらすことができるよう
父である神にお祈り下さい。
アーメン。



カトリック高幡教会 守護聖人の像

教会学校より

教会学校の今

リーダー ライネリオ川崎将男

コロナ禍は教会活動全体に大きな影響を与えましたが、教会学校もその例外ではなく、昨年は、三月から八月までの休校を余儀なくされ、子ども達も楽しみにしていた夏キャンプも中止せざるを得ませんでした。また、長年にわたり教会学校の活動をご支援いただいた下瀬神学生に、直接、感謝をお伝えできなかったのは、本当に心残りなことでした。

そういった状況はまだ解決したわけではありませんが、昨年九月より、月一回、第三日曜日の午後、親子のためのミサと三十分程度の勉強という内容で、活動を再開しています。

勉強については、感染状況に応じたソーシャルディスタンスをどう取るか、という課題のため、一緒に本を読んだり、映像を観たり、クイズをしたりと試行錯誤を続けながらではあります。旧約のヨセフ物語まで学ぶことができました。そして、在校生五名に加えて、多くの新一年生が入学してくれました。ミサに与り、真剣に勉強することもあり、賑やかで楽しい時間にも

なっています。

制約下での教会学校ではありますが、十名以上の子ども達も参加してくれて、大きな集いとなったのが昨年十二月のクリスマス会でした。残念ながらパーティーはできませんでしたが、御ミサの後、神父様ご紹介の「アンジェラのクリスマス」というアニメーションと一緒に観て、最後にリーダー達も選んだクリスマスプレゼントを子ども達に渡しました。

また、待降節に当たって、橋本さんご家族手作りのアドベントカレンダーを子ども達に配り、「神様に喜んでいただけることをしましょう」と呼びかけたことも新しい試みでした（写真をご覧ください）。



ご復活おめでとうございます



<編集後記>

イエス様は復活されました。新しい気持ちでイエス様に会いましょう。ご聖体を通して来られるイエス様のご復活の神秘を与えて下さった神様に感謝致します。コロナ禍等で教会に来られない方々を祝福し力づけて下さい(ステファノ金哲洙)。



洗礼志願式の様子(2/27)

◆高幡教会のミサ時間◆

教会からの手紙をご覧ください

◆高幡教会ホームページの URL ◆

<http://www.cctakahata.jp/>